明治廿六年八月三日印刷
明治廿六年八月四日發行

婦人衛生雜誌

第四拾五號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衛生雜誌
第四拾五號
目次

講演

◉衣服の話　ドクトル　飯盛挺造君

◉小兒の避暑に就て　醫學博士　弘田長君

寄書

◉平易に産事を了せしむる法　醫學士　賀古鶴所君

○産用器械○産婆の務○産褥熱の症候原因○産婦の手指及器械○産婦の用意○海綿○鑛製の器物○産婆手指の洗浄○寢衣敷布臥褥の更換○産婆の注意○産婦の傳染病

衛生叢談

◉脚氣病◉臥褥法◉健康規律◉日本人の浴湯◉食物と出産との關係◉煙草の効能◉爪の成長◉水醫法◉斷食の試験◉蜂を以て僂痲窒斯を療す◉兵營の衛生◉歐洲自殺多し◉房楊枝の嚥下◉本年の暑さと虎列刺◉天然痘と虎列刺と本所病院◉熱性脚氣流行◉各縣赤痢◉大日本婦人衛生會例會◉大日本私立衛生會例會◉赤十字社の社員の増減

●廣告數件

大日本婦人衛生雜誌
第四拾四號
目次

講演

◉外科的衛生小言　醫學士　岡田和一郎君

寄書

◉婦人須知　醫學士　賀古鶴所君

衛生叢談

◉浴場行日誌（前号の續）　醫學博士　佐々木政吉君

◉實行を望む
◉ツベルクリンの効力
◉欠伸の効能
◉音樂と病との關係
◉虎列刺病因撲殺法
◉滋養麵包の新發明
◉我國に於ける肉食の程度
◉人造麝香の贋物多し
◉咬傷の藥
◉第一醫院の病室修築
◉監獄と衛生
◉類似コレラは傳染病にあらず
◉虎列刺病
◉ヘルスと牛乳
◉齒痛の藥
◉奇妙なる婚姻式
◉脚氣病と麥飯
◉廣告

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌第四拾五號
（明治二十六年八月四日發行）

講演

衣服之話

（六月十日富士見倶樂部に於て婦人衛生會例會を開く）

ドクトル　飯盛挺造君

演説に先だちて、皆様の御健康を祝します。前會に友人の丹波君より本會に出で丶御話しをする樣にとの事でありましたが、私は衛生上の事には、誠に暗い人間でございますから、平に御斷りを致しましたが、是非何か話して呉れとの再三の御頼みでございましたから、何を御話し申して宜しいか、是れぞと云ふ腹案も無いので御座いますが、兎に角御請けだけを致したやうな譯でありまして、且つ私は教育會では度々御話しをした事もありましたが、衛生上の御咄しを仕まするは、今日が初めてゞ御座います。併しながら始めての演説に、貴婦人方の御清聽を煩しまするは、偏に私の光榮とする所であります。左樣に衛生に暗い私の申上げる事でございますから、自分では何か御利益になる事を申上げ度いと考へましても、元衛生に暗い事故、或は談衛生上に涉らずして、物理上の下らぬ御咄しに過ぎぬかも、知れませぬから、其義は前以て御斷り申して置きます。

扨、私は衣服の事に就て少しく御咄し申上げやうと存じて「衣服の話」と云ふ題を揭げて置きましたが、元腹案もなく、先きに題を揭げたやうな譯でありますから、恐らくは其題と今日申上げる事とが、能く合はぬ樣な事が有るかも知れませぬが、其邊も亦前以て御斷りを申し上げて置きます。

我々が身體を健康に保ちまするに當ッて、無くてな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

らぬものが三ッ程有ります。即ち衣食住と申して、着物に食べるものに、住居とで有ります。衣服を以て暑寒を凌ぎ、食物を以て餓を凌いで居り、住居を以て雨露を凌いで居る。其筆頭になりまする所の衣服の事でありまするから、此衣服と云ふものは、我〱の健康を保ちまするには、最も大切のものと申さなければなりませぬ、一体其衣服は何の為めに用るのかと申しますれば、一口には暑寒を凌ぐと云ふに過ぎませぬが、是れには深く注意しなければならぬ點が幾らも御座います。食物で有りますれば、堅い物、消化の悪い物は食ふてはならぬとか、斯う〱云ふ物は衛生に善いとか悪いとか云ふだけの事でありまするが、衣服の事に至ッては、左程著しく目に立ッた事が御座いませぬから、誰れも知らず識らず不注意に為るといふ點を免ぬかれませぬ、ソレ故今日は其點を御話し申します。衣服の御話しを致しまするには、先づ其前に物理上の熱の御話しを致して置きませぬと、……突然衣服の事を申しましても、御解り悪い廉が有らうと考へますから、物理上の御話しを致し、且つ試験をして御覧に入れます。我〱が自分の座邊に在りまする物に觸れまするど、温かいとか冷たいとか、或は熱いとか云ふ感じを覺ゆることが御座います。斯様に熱いとか、冷めたいとか云ふ變ッたる感じは致しますけれども、一口に申しまするど、其元は皆熱でございます。此熱が或物の中に丁度好い加減に這入ッて居りますれば、其物はいつでも變る事なく、チヤンとして居りますが、其熱が漸〱殖えまして余り多過ぎると、何か變ッた事がございます。我〱の身體にしても定りたる熱が度を越へれば、病氣になるのと同じ事で、物体の熱が漸〱殖えまするど、何か變ッたことが御座います。然らばドンな變り方をするかと云ふに、熱が

殖えまするに從ひまして、如何なる堅き物質でも次第に大きくなります。今茲に一の容易き試驗をばしまして、熱の增加に從ッて物質の大になると云ふ證據を御覽に入れます。併し此試驗は極く容易い試驗で、當今は小學校に於て生徒に敎へる位ゐでございますから、殊更に試驗をして御らんに入れる程の事でもありませぬが、唯證據立てるだけのことでございます。

爰に一の金の足の附きたる圓き輪と、其輪を通る位ゐの圓き玉とがある、此玉をば火を以て溫めまると、肉眼には別に變りたる樣には見えないが、必ず前よりは大きくなッて、先きにはゆるやかに輪を通りたる物も、熱の增加に因て膨脹し通らぬやうになります。又爰に丁度一杯になりまする所の金の櫛形(一は櫛形にして、一はソレに合ひたる鍵形の物)のものがございます。これも同じく一(櫛形)の方を溫めまするど這入らなくなります。是は前に申し上げました如く、金を溫めましたので、熱度が增し膨脹したのでございます。之に因て熱が增せば、物が大きくなると云ふことは御解りになつたらうと思ひます。斯樣に熱が增せば、物が大きくなりますが、尙は一層熱が加りまするど、まるで溶融て仕舞ひます。夏熱い時分に今日はからだが溶けるやうだと云ふ事を言ひますが、全く多量の熱が加りまするど、金屬杯も熔けて仕まひます。其事も序でに試驗して御覽に入れますが、通例の金の熔けるのは、時間も懸りまするし、容易に御らんに入れることは出來ませぬから、今日は極く熔け易い金を以て試驗して御覽に入れます。(玻璃器に水を入れ其中に長さ二寸ばかりなる圓き金を入れ之をアルコール火にて煮、暫時にして熔融せしめ全く流動体の物となるの實例を示さる)此通り堅い金でございますが湯の中で熔融て

仕舞ひます。是れが又冷えまするとゝ元の如くに凝固くなります。何ぼ熱の爲めに物の大きくなる事を御覽に入れます。是れは一の壜でありますソレに管が附いて居るのみでございますが、私が之に手を觸れまするとゝだん〳〵泡が出ます。ソレはドウ云ふ理由かと云ふに、此中に這入ッて居ります空氣が私が今抑へた手の熱で膨れて管の方に出て往くので御座います、又之を暫く離して置きまするとゝ下（瓶の底）に水が昇ッて參ります。又之に手を觸るれば其熱で空氣が追ひ出されるのであります。斯樣に熱の多少で物が大きく爲り、或は堅い物が柔い物になつて仕舞ふのであります。熱と云ふものが斯くの如く働く所を以て見ますれば、前に申上げました通り、一定の熱でなければいつまでもチャンとして居ることは出來ないのでございます。

ソレで熱と云ふものは、何處から出來るものであるかと云ふに、熱の元はいろ〳〵御座います。其中で最も大いなるは太陽の熱でございます、我々は日々太陽から光と共に熱を得て居ります。然し太陽は一年中一日も缺かさず出まするけれども、大層澤山の熱と少しの熱を受ける時とかございます。夏でありますれば、熱を餘計受けまするし、冬になりますれば、漸々熱を受ける事が少なくなります。ドウして時季に因て熱を得ることに多少の差があるかと云ふに、太陽から受ける熱が別に少ないといふ譯では有りませぬが、太陽の位置、即ち日と我々の相對しまする向方とに因て違ふので御座います。鳥渡縱令て申しますれば、我々が火鉢に手を翳しまするに當て、火の上の方に手を出しまするとゝ大層煖かいが、若し横に出しますると――横も上も同じ程の隔たりはありましても、横の方は左程煖氣は御座いませぬ。ソレと同じく太陽が地球を一週しまするに當て、其太

陽の位置と我々の相對しまする方向とに依て、熱を受ける事に多少の相違があるのでございます。

太陽の次には、何の熱であるかと云ふに、是れは化學上より出來る熱で御座います。其化學上より出來る熱と申しまするのは、薪や炭を費しまして製し、或は油を燃して出來るのでございます。容易く言へば炭でござんます、其炭の中の炭素と申しまするものが、空氣中の酸素と化合して、炭酸を結びまする時に出來まする所の熱でございます。たとへば、釜の下に薪を燃しましても、其薪が好く燃えなければ火は出來ない、火が燃えれば煖くなるので、則ち燃える時に熱が出來る。ソレ故火をおこさんとする時に、酸素が乏しいと好く燃えない。なんだか下婢の代りをするやうでございますが、釜の下を燃すにしても、下のすくやうにして、ソコから酸素が澤山に這入るやうにしなければ燃えませぬ。炭を灶ぐも同じ事で……御茶の湯ではないから、別に喧しい規則はないが、下の方のすくやうに灶ぎませぬとおこりませぬ。ソレでも尚は酸素の足りませぬ時は、團扇或は火吹竹を以て之を吹き、酸素を追ひ込みますると早く起ります。つまり油を灑ぐと好く燃えると云ふのも同じ理でございます。ソレ故火爐であれ火鉢であれ火を起しますときには、酸素を澤山送ッてやるとよく燃えます。今酸素を送れば、確かに火が能く燃えると云ふ事を試驗して御目に懸けます。只今御覽に入れますが、瓶中の酸素の中に入れて燃せば、唯空氣中に置くよりは、却てよく燃えます。ドウして瓶中で却て能く燃えるかといふに、空氣中には酸素のみあらず、窒素其他の瓦斯をも含んで居ります、然るに此瓶中には酸素のみにして他のものが交ッて居りませぬから、空氣中よりは却て能く燃えるのであります、(一の瓶中に酸素を蓄へ其中に

て炭、蠟燭針金燐「ホスホル」の四種を燃して示さる）此一二の試驗を御覧になれば、物が燃えて熱を起すには酸素と云ふものがなければならぬといふ事が御解りにならうと思ひます。

其次に熱を起しまするのは、仕事でございます。此仕事といふ意味は、通常の仕事とは少しく違ッた意味で、何か摩れ合ひまするか、或は擊ち合ひまするかを仕事と申します。例之ば鋸を以て物を引くとか、或は錐を以て厚き木に穴を開けやうとすると、錐が熱くなります。又寒い時に両手を揉みまする と、暖くなります、ソレ等は皆摩れ合ふので熱が出るのであります。其尤著しき例を擧げて見れば、則ち燧石であります。是れは鋼鐵と燧石とが摩れて火が出るのであります。只今では一般にマッチを遣ひまして、燧石杯は遣ひませぬが、是れは鐵と石とが摩れ合ひました熱で、鐵が溶けるので有ります、（實例を示さる）又マッチを摩れば、火の出ることは誰れも知ッて居るが、これも矢張りソレ丈けの仕事がなければ火は出ませぬ。サウしますると熱の元は大きく分ければ、太陽熱と化學上の熱と仕事とであります。（モウ一ッ有りますが、ソレは後に申し上げます）其熱の元は種類を問はずドウ云ふものからでも得る事が出來ますが、其熱を傳へまするものと、傳へませぬものとが御座います。凡て金屬は熱を傳へるものであります。例之ば爰に金の物が有りて、一方を烘りますれば、其物一体が熱くなる。然るに木或は竹、木綿等で有りますれば、斯樣な物は熱を導きませぬ。則ちマッチの如きは、一方は熾に燃えて居りましても、他の一方を把でッ居る事が出來ます。其熱を導かないものは澤山に有りますが、其中の一二を擧げて見ますれば、金の物で火に觸れるものには、必ず木の柄が附いて居る。縦令ば、火

斗熨斗等は必ず柄が附いて居る。其他のことは申し上げるまでもなく御解りにならうと思ひます。
唯今申す通り、木類や木綿類が熱を導かないものでありまするゆへ、斯様なものを以て物を包んで置きまするとき是れを冷やさない事も出來まするし、又熱く仕ない事も出來ます、これは一寸御解りにくい樣な事でございますから、一例を御話し致します。氷を金の器に入れて置きまするとき、直ぐに溶けて仕舞ひます。併しこれを木の器に入れまして、其上に鋸屑や鉋屑で掩ふて置きまするとき、永く溶けないで居ります。サウして見まするとき金の外は熱い所から、段々に熱を傳えて之を熔融し、木は外からして之を熔かさぬので御座います。
以上は先きに申し上げました通り、物理上一班に申して置く事でございます。モツ一ツ御咄しが洩れた事が有りますから申し上げて置きますが、熱を物が導くのでなく、熱の源より出て來るものを直接に受けても物は熱くなりますその譯で反對にす澤山熱を保ッて居るものでなければ直ぐに冷めて仕舞ひます。ソレ故物の冷へぬよふには成べく熱を導きませぬものを厚く覆ふて置なければなりませぬ。其熱を導きませぬものはなんであるかと云ふに、先きに申したる、種類でありますが、其他にも毛類は熱を導きませぬ。則ち羅沙、フランチンと云ふやうなものでございますれば、熱を導く事は余程少ないので御座います。」夏であれば、如何であるかと云ふに、夏は四方の熱が多うございますから、なか〳〵からだの熱が容易く出てゆきませぬ。ソレ故成るべく薄い物を纏いましても充分にからだの熱を保ッて往く事が出來まする。又鳥渡考へると、暑い時には外から熱を得て、からだの熱が多くなるだらうと思はれますが、サウでない、夏も冬もからだの熱は變らない其變ら

ない様にするのが衣服の務めでございます。右は厚い薄いと申すだけの事でございますが、尙ほ染色の關係がございます。先程山根先生の衣服に就ての色素の御咄しがございましたが、アレは染物の毒に爲る爲らぬと云ふの御はなしで御座いますが、私のはサウでない、染色に因て熱を引く引かないの事に就ての御咄しでございます。

夏は成るべく白い物を用ゐまするのが宜い、黑い物を用ゐますると、外の熱を余計引きます。故に日の當る所に出ますると、黑い物は大層熱を引きまして暑くなります。白い物でありますれば、熱を引きまする事がごく少なう御座いますから、從て暑くなる事が少ないので御座います。是れは誰れでも日の當る所に出て見ますれば、直接に自ら經驗の出來る事で御座います。ソレでは冬期はドウであるかと云ふに、身體に直接に觸れるものは、矢張り白い物が宜しい。なぜかと云ふに、黑い物で有りますれば、漸々熱を引きまして、サウして外に出して仕舞ひます、白い物で有りますれば、先程より申して居りまする通り身体の熱を止めて置くので御座います、ソレ故からだに觸れる所は白くなければならぬ。ソレでは全體悉く白くして居ッたら宜からうか、如何であらうかと云ふに、實は上から下まで皆白くても宜いので御座いますが、多少美術上、飾りの上の考へもありますから、サウ殘らず白くする譯にも往かないが、下が白い物であれば、詰り上は下の物程に直接に熱を受ける事は有りませぬから、肌に附ける物が白ければ、上の物は各自好む所の色に致しても宜しいのであります。其黑色に似て居る紺、紫は矢張り黑色と同樣であります。赤色或は薄色でありますれば、白いものに能く似て居ります。私の今日申上げ樣と思ふ事は、人間は身體の溫度を變らぬ樣に

保ッて居れば健康を保つ事が出來る。温度の變らぬやうにするには夏と冬とに因て、成るべく熱を導かないものを用ゐ、身体の温度を平均に保たしむるにあるので、是れが今日私の申上げ樣と云ふ趣意で御座います。衣服の話しと云ふ題を掲げましたが、洋服が宜しいとか、和服の方が宜しいとか云ふ樣な事では無いのでありまして、たゞ衣服と身體の熱との關係、並に衣服の質色等に因て熱を受けるに多少の相違ある事を申上げるつもりではありましたが、最初に御斷り申上げましたる如く、或は物理學上の話しに過ぎないと云ふ御咎めを蒙るかも知ませぬ。去りながら其段は先きに御斷り申したる譯でございます。今日は是れで御免を蒙ります。

小兒の避暑に就て

（明治二十六年七月一日 富士見倶樂部に於て）

醫學博士 弘田長君講演

今日は私は、小兒の炎暑を避くる爲めに山間の土地に參り、或は海水浴に參ります事に就きまして、少し述べやうと考へますが、其演題に移る前に持參しました道具を御目に懸けます。其道具と云ふは小供を育てますに就て、人間の乳を用ゐる人あれば障りは無いが、若し不幸にして牛乳を用ゐなければならぬ樣な方には、暑中に於て最も必要の品でありますから、一寸ソレを御目に懸けませう。（器械數点を卓上に排列し）牛乳の事は最早御承知でありませうから、委しきことは申上げませぬが、詰る所牛乳と云ふものは暑中は極めて變敗しやすい。朝搾りました乳は水に浸けてあつても漸く午後の一時二時頃しか持ちませぬ。朝夕精々資た乳を井に浸けましても午後の二時頃から先きにあると、甚だ疑しき乳にある、又午後に配達したるものにても夜の十一時後になると餘程注意しても或は惡くなり

はせぬかと云ふ乳を飲ませせなければありませぬ。モウ一ツ困難であるのは、大磯とか箱根とか云ふ地方へ旅行するに朝の六時とか、七時とかに配達した乳を大磯なり箱根なりまで持ッて往かなければならぬとすると、是れ迄の方法に依りますと餘程困難であります。氷の中へでも詰めて往けば兎も角も、輕便に之を持ッて往くことは迚も出來ませぬ。所が今日御目に懸けます品が出來てからは、自分の信用する牛乳舖、若くは小供の性に合ひます牛乳を一日でも二日でも持ッて往くことが出來途中で樣子も知れぬ乳を求むる恐も無く是れさへあれば大坂なり長崎なり同樣の乳を持運ぶことが出來まする。今日の如く暑中御出かけ遊ばす方の多き時には、牛乳を多量に用ゐらるゝ方には、箇樣な器械も最も必要であると思ふ又之を以て小兒を養ふばかりでなく御自分の養生のために多量の牛乳を飲まるゝ人の爲めにも必要であると思ふ。委しきことは疾くに御承知でありませうから申しませぬが、唯此の器械の使用法を申上げます。

(ガラス製の手を附したるコップ形の器を示し)此のガラスは一升五合程這入るのでありますが、是は朝配ッた牛乳を一纒めにして置くので御座います。

(ガラス製の小さき德利形の器を示し)サウして之に分配します。是れには一合ばかり這入りますが、幾ツも列べて置いて、之に皆入れます。次にゴムを以て栓を致します。栓はコロップでなくゴムを用ゐます。サウして牛乳を此の口から三四分下まで入れます、即ち一パイには入れないで置く。ソレから栓をして、ガラスの棒がありますが之を初めから附けては往けませぬ、栓だけをして一部分が空いて居るやうにして、此の壜を三ツなら三ツ、十なら十入れてさうして他のブリッキ製の大きな斯くの如きもの丶

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

中に入れて、次に湯を入れます。湯の入れ方は壜の首あたり迄入れます。此の器械で言へば高さ六七寸迄湯を入れて、之を臺所の七輪の上に湯を沸す目的を以て載せて置きます。暫くすると湯が沸立まするに従ッて牛乳も大變熱くなつて沸る樣になります。サウすると先きに壜の口を三四分窒して置いたのが乳が沸るに従ッて、ゴムの穴から洩れて來ます。サウすると此の壜の中には少しの空氣もなく牛乳を以て滿つるやうになります。ソレから三十分ばかり沸た所で、ガラスの棒を穴に挿して密閉する。サウすると牛乳と云ふものゝみで少しの空氣も無くなるから、之を貯えますると一ヶ月も變敗しないと云ふ位に保ちます、且ッ壜の數は幾らもありますから、大概の處までは同じき乳を持ッて旅行することが出來ます。日本の如き暑中の永く續く國に於きましては殊更ら必要と思ひます。又此の器械に就て、大人なれば少し位消毒の不行屆の乳でも障りませぬが、小さき子供程非常に感じまするから、最も必要なのは消毒であります。

(小さき「ブリッキ」製のおけを示し)此の器械は消毒した乳を飲ますにも、既に冷たくなつて居るからソレを暖めて飲ます爲めに斯くの如き形ちのものが造ッてあります。茲に輪があるのは寒暖計を挿す用に供します。寒暖計はドノ位ゐの暖さ迄にして飲ませる、例へば三十八度とか三十七度に暖めて、常に同じき度合のものを飲ませることが出來る、母親御自身になさらずとも他の召使の者でも、寒暖計で度を示しますから誤りなく小供を營養することが出來る。

(ゴム製の乳首を示し)是れは乳房の大きいのでありますが、是は掃除の行屆くやうに殊に大きくしてあるのです、通常本邦にあるのは壜から管を通じてあ

るのですが、アレは何分にも掃除をするに管が小さいから困難であるから、殊によると管のために乳を惡くする、故に此の乳房であれば管を用ひずに直に壜に詰めて飲めますから、管を掃除することもなく乳首の掃除も容易いのであります。アとは掃除する器械ですが、此等を御一覽に供へます爲めに持參致しました。

ソレからモウ一ツ御覽に入れるのは牛乳でありますが、牛乳は大變滋養物であつて、コンデンスミルクも滋養分はあるが、其のコンデンスミルクの中には──(ミルクの種類十數品を示し)私の今日持參しましたのは十四通りでありますが、此の中には大層善惡があつて、小供を養成するに堪えぬミルクが大分あります。コンデンスミルクを唯用ゐました所で一向目的通りに往かぬことがあります。此の種類の中にも人形かたと云ふのがありますが、十九錢から十七錢位で賣る所もあります。是などは脂氣が少ない乳は脂のあるものでバタを製する位に脂があるのですが、此の人形かたのミルクには脂が少ない。少ないのは滋養には宜しくないのであります。世間には能く之を買ふ人もありますが、其中には育ちの宜しくない子供が幾らもあります。私共取扱ひます患者の中には乳の爲めにミルクの爲めに過られたのが往々あります。今日持參しました外にまだ二三種ありますが、今日は持參しませぬ。此の中で一番名の知れて居るのは亞米利加の鷲印であるが、是も能く御覽になると三通りある、三通り合せて見ると色に僅か厚薄のある丈で、形ちも同じであります。中を開いても外見上は一寸も違ひはないが、實際に用ゐますれば多少の善惡はあります。ソレからコンデンスミルクを用ゐまして御注意にならなければならぬのは、ブリッキの鑵が日本で出來る、日本で不都合

の鑵を拵へてからに張紙を貼れば亞米利加のと外見は同様のものが日本で出來る、故にコンデンスミルクを御求めになるなれば、確に信用の出來る店から買うか、又口を開いて見なければ到底善惡の判斷は出來ませぬ。ソレで子供を養育する人は、コンデンスミルクの種類等に就ては、能く醫者に就て聞かないと過ることがあります。ソレ丈けは避暑の御話を申す前に述べる積りで持參致しました次第で御座います。

小兒の避暑に就て

是から小供の暑を避けます事に就て一寸申上げますが、暑中になりますと東京から數千の人が暑を避けます爲めに、或は山に遊びましたり或は海邊に遊びましたり、何れの都會に於きましても、東京は固より大阪なり京都なり其他の都會に於きましても、大概夏が來れば遊びに參るのが通例であつて、大低暇を得る人であれば遊びに行く、此の遊びに行くと云ふ事は身体の利益になる事でありますから、至極宜しき事で、暑中になつて山に行き海に遊ぶやうな考への起ッたのは、畢竟衛生と云ふことが一般の人の心頭に上ッた事と考へるから、是れハ大に賀すべきことゝ思ひますが、避暑の爲めであると云ッて山なり海なり唯行きましただけでは、決して其目的を達し得るものではありませぬ。行きましたなれば行きました丈けに、先方で攝生をしなければなりませぬ。ソレでありませんと、箱根でも大磯でも詰り多勢集まつて飲食する場所と云ふ事になる、暑中の休を得たから唯だ暑を避けると云ふ目的の人もありますが、又平生は精神を勞したり家事の爲めに心を痛めたりするから、ソレを回復すると云ふ目的の人もあるから、其目的で行くなれば山なり海なりに行きましても能く身体の益になるやう致しませぬと、ソレ

が爲めに貴重の時間と金錢とを費しますのでありますから、其方法を撰ばねば其の得る所は甚だ少ない事にある。併し唯今申しました山や海に行きて不養生をするのは必ず大人に多いので、小さき子供は兩親が注意を致しますから、サツ酷い不都合もあるまいと考へますが、併し能く御注意は遊ばさなければならぬ。私も山や海の方には餘り參りませぬから、ドウ云ふ樣な事を致して暑を避られて居ると云ふことは、自分は明かにも存じませぬが、今日まで自分の參りました三四ヶ處の海邊、或は湯治場等に就て、御子供衆の有樣を見ると、多少感じた所もありますから其感じた所を述べやうと考へる。

其の感情の起ッたのはドウ云ふ譯で起ッたかと云ふ歷史から御話しませぬと分らぬが、大學の病院に御子さんが參ッたり、或は又自分に賴まれて診る病人に就て、是迄治療致したり養生の御相談をしたりする中で、中には稟性身体の虛弱方もありますが、往々育て方が宜しきを得ずして虛弱のではあるまいかと云ふ疑ひを起すのが少なくはありませぬ。ソレはドウ云ふものであるかと云ふに、今日衛生と云ふ問題が大分八釜しくなりまして、冬になれば小さい方に風をひかしてはならんと云ふので二枚三枚ならまだしも、四枚五枚六枚も着物を召させて、殆んど子供の身体は自由にならぬ程着せて、何は風をひかさぬ樣にと注意するのが、今日中等以上の人に最も多く見懸けます。却て身分の輕き者なれば左樣にしたくも出來もしませんから、其憂へはありませぬが中等以上の人に於ては大事にする大切にすると云ふ点から、非常に多く衣物を用ゐて居る。又夏になれば此の暑では堪えられまいと云ふので日光や函根に出懸ける、寒を避け暑を避けて始終からだか逃げると云ふ事になつて居る。寒さにも熱さにも打勝つと云

ふ方針でなくてはならぬのが逃けると云ふ傾きがある、其方針が過りを生じて先刻言ふ通りの虚弱い御子さんと思ふ様な方を生ずるに至ッたのではあるまいかと思ふ。抑〳〵衛生と云ふものは身体に就て申せば、寒中には厚衣をせずとも風をひかず夏が來ても暑にまけぬと云のが目的でありまして寒が來れば火鉢の側にばかり居ては寒を防ぐのではない。ソレ等から考へれば封建の盛んの時分に厳寒の朝薄暗い時分に剣術を使ひ短き衣物を着て稽古した、其時代を通り越した人は私共の身体に比しますとズット強いと思ふ。ソレは寒中寒稽古をして鍛へ上げたからだであるから、サウ云ふ方の身躰は餘程強いので今の卅歳前後の方は却てドチラかと云へば弱くあつたと云ふ人の方が多いと思ふ。サウ云ふ様な狀態でありますから、今日小さい御子さんを育てるには、寒にも暑にも打勝つと云ふ方針にして育てゝおければならない。

歐羅巴の如きも日本より寒さは強いが、着物はドチラかと云へば日本人の方が厚着をして居る。ドウしても私は此の着物を餘計着るやうになりましたのは誤りであらうと思ふ。故に之を慣すには平常冷水を以てからだを拭ふが宜しいと云ふ事を申上げたことが御座いますが、冷水でからだを拭くと、身躰が緊ッてサウして冷たいと云ふ事に皮膚も神経も馴れて仕舞う。サウすると今度冬になつて北風が盛に吹いても弱らぬやうに身体を鍛へ上げるのです。厚着をして感冒を防ぐと云ふ方針を執るよりは、身に冷たいものを當て、ソレに馴れる様にしなければならぬと思ふ、冷水法を實行せられた方は後には必らず喜んで居られます。なぜ喜ぶかと云ふに前の冬に十回風邪に罹ッた方が此冬は五六回しか風をひかぬ、其度數を減ずると云ふ事は能く見へるのであります

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

小兒の避暑に就て

冷水は又大人にも大に利益があります。大人も一たび之を實行せられた方は好んで爲さるやうになります。此の説明を餘り委しく申すと醫者の方のことになりますから、申上げませぬが一言にして曰ふて見ると、皮膚が緊ッて神經も寒に馴れソレのみならず血の循環も能くなると云ふやうに、全体に大層宜しき結果を生ずるのであります。

然る所が前に申した通り、夏になると皆御出懸けになる。サウして避暑地の摸樣は如何であるかと見ますると、大磯あり函根ありに往かれまして、熱くない時は貝でも拾ッて遊ぶとか、宿屋に歸れば友達も少ないから退屈を致して食物を澤山食べる。却て東京に居た時よりは菓子なども澤山食べなければならんと云ふ事になつて、却て食物の節度も從前よりは紊れる樣になる、又一日に何回も何回も召上るやうになる。ソレから御使ひになるのは塩湯を使ふソレが先づ大概の御子さんの避暑に行かれての遣り方であると思ふ。稍成長しまして十歳から十四五歳の人なれば違ひますがモット小さい方なれば必ず其通りであります、所が海邊に行き塩湯に入り新鮮の空氣を吸ひ、食物も好しと云ふのは至極利益があるには相違ありませんが、ソコまで進みましたなればモウ一歩進んで、私は塩湯のかわりに冷水を用ゐる事になれば、一層宜しき結果を得られやうと思ふ、之が私の御話致します骨髓で御坐ります。併し冷たいと云ッても凡そ度のあるもので、餘り冷たいのは温くしなければならぬのもあります。餘り小さい小供に冷た過ぎては往けません。或は海水を好く小供もあり好かぬ小供もあるから、ソレに依ッても違ひます。次に湯の効能と水の効能とは違ふと云ふ事を申します。湯は鎭める方の効能を有して居り、水は刺戟する方の効能がある。痙攣でも起ッたとか、引つけた

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

のを鎭めるとか云ふには湯が宜しい。サウ云ふ点には水は往けない、一方は刺擊し一方は鎭めるのである。刺擊する方には水でなくては往けない。海の水其儘では冷たいと云ふなら湯を薄めて日向水位にしてもよし、或は日向水よりは少し冷たく、詰り子供衆に適する様にしてソレより追々冷たくして、大概の水に堪えらるゝやうにしなくてはならん。山に行きましても海に往きましても、水に不自由は御座いませぬから、何人でも之を實行しやうと思召せば出來るのであります。是よりも尙ほ一層刺擊を强くするには、海なれば鹽が這入ッ居るから鹹い、此の鹹いのは只だ冷たいのみのものよりは一層からだを刺擊して宜しいのであります。山の方に行きますなれば炭酸の這入ッて居る水なれば大變に宜しいのであります。其上に同じ冷たい水よりは鹽水、鹽水の動かぬものよりは動くものゝ方が別して都合が宜しい、又水の動いて居るばかりでなく、水の温度と空氣の温度の差が違ひますと、是又別段刺擊が强くなります。又其水に這入りました人は水の中で動くが宜しい、游泳の如きは最も宜しい。ソレよりも尙は一層刺擊を强くするには水の中で海面のやうなものを持ッて非常にからだをこすりますのが宜しい。サウ云ふ様にいろ〳〵水を使ふ上に尙ほ刺擊を强くすることが出來る。或は鹽があッたり水を動かしたり、色々刺擊を强くしますが、之に反して又刺擊を弱くすることも出來ます。ソレは御子さんが御出懸けになる時に、親しく罹ッて居る醫者に御尋ねになれば、大体御話することが出來ます。温度も醫者に御聞きになれば分ります。ソレから避暑地から御歸りになつても秋から冬にかけて冷水でからだを拭くことを續けて遣りますれば、大變に身体が强く緊ッて參ります。風邪に罹る事もなく血の循環も宜しく

ある。サウして之を二三年も續けますれば、餘程に違ひを生ずるであります。

此等の事は實は既に御試みの方もあらうと思ひますが、是よりは暑中旅行の氣節でありますから、一寸此事を申上げて、成る丈け御旅行にありましても從來御家に御居での時と同じに致し、使ふ水は湯よりは成るべく冷水を用ゐ、食物を節しられましたならば、是迄よりは餘程宜しき結果を得られやうと思ひます此の次には緒方君より衛生上の有益なる御話がありますから、餘り長くならぬ中に是にて失禮致します。

寄書

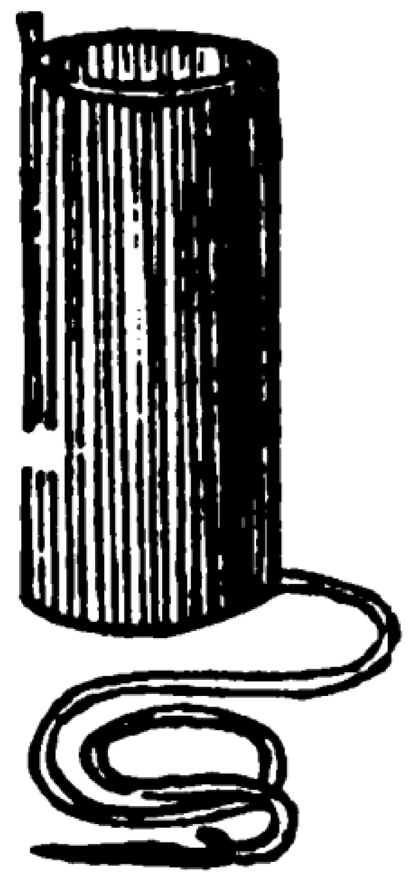
平易に産事を了せしむる法

醫學士　賀古鶴所君

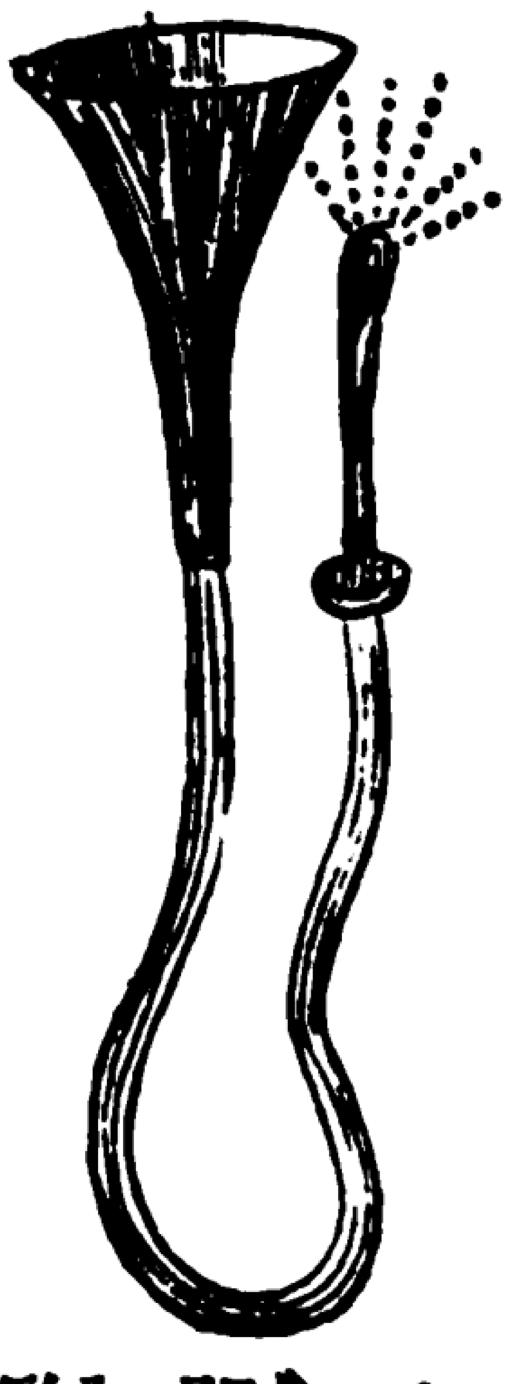
産用器械

富家に於ては自用に供する爲め必ずイルガートル灌腸器子宮管カテーテル小盤綿花石炭酸等を準備すべし若し然らすして偏に産婆の器械に依頼せば元來數多の産婦に接する者なるを以て爲に他人の病毒を傳移し危險に陷るとあり故に豫め此等の者を準備するを必要とす而して幸に高價なる者にあらすサクセン王國に於ては近時特に條令を發し凡そ産婆たる者は常に器械數品を準備し産家に臨むごとに之を購求せしむるとせり此條令に據れは産婆は常に左の數具を携ふへきなり

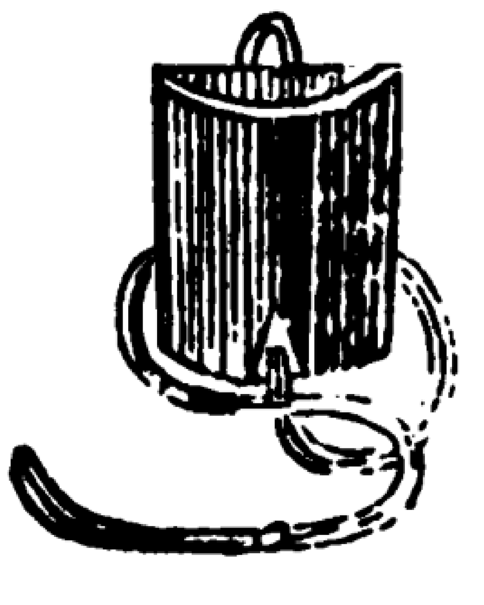
一灌腸器　一具若しくは之れに代ゆるにイルリガール一箇並に子宮管一箇膣内に藥水を注射し洗淨するに用ゆ及灌腸用附屬管二箇を以てす而してイルリガートルの單簡なる者は圖の如き硝子製若くは磁器製



の漏斗或は鐵鑵にして之れに附屬すへきゴム管の一端は器の嘴管に固定し他端には子宮管若くは灌腸用尖管を固定す而して器に藥液を充つるときはゴム管を器中に入れ倒に濫に藥液の流逸す



るを防き用に臨て之を摘出す子宮管は約そ長さ五分許膣内に挿入し而して器を高く捧くれば藥液流射して能く深部に達し洗滌するを得へし但し小盤を臀部に



當て汚水を受くへしイルリガートルの其他の注射器に優れるは之を使用すると便にして且つ誤て體部を損傷するとなく又清潔に保存し易きにあり

二婦人用カテーテル　銀製若くは新銀製の者を最良とす洗淨するに便なり平常蠟紙に包て貯ふへし

三　臍帶鋏　臍帶を截斷するに用ゆ

四　撿溫器　體溫を撿するに用ゆ

五　帶布　臍帶を綁縛するに用ゆ

六　サリチル綿若は清潔なる脱脂綿を撮て鷄卵大の塊となし糸を以て之を結束し清潔なる鑵中に貯ふ産後これを用て膣部を覆ひ以て汚液を吸收せしめ又外氣をして直に創傷に觸れさらしむ別に石炭酸綿及ひサリチル酸綿を貯ふべし

七　石炭酸油劑石炭酸軟膏石炭酸一分ヲレフ油若はワゼリン二十五分を以て製す藥舖に就て求むへし指頭、子宮管、灌腸器等に塗布するに用ゆ

八　五十倍及二十五倍石炭酸水

九　毛刷　石鹼水に浸し以て指頭を洗淨す

凡そ器物は用後必す丁寧に洗淨すべし鑛製の器物にして膿液若くは腐敗物に汚染したる物は必す湯中に投し沸熱せしめて後石炭酸油を塗り暫くして再び溫

水を以て之を洗ひ去るへし然らされは爲に汚物を傷部に傳へ產褥熱を發すへし

產婆の務

產時の指揮は一に產婆に委ぬへし而して產婆は豫め分娩の難易を計り產婦の親族に通し置き若し異常を生せは速に醫師を迎ふべし胞水既に降らは產婦をして產褥を離れしむ產後嬰兒を浴せしむるは臍帶の出血止むを俟てすへし若し又產後二時間を經るも胎產未だ下らさるときは假令產婦に於て別に異常を感せす又甚しき血出を生せすとも醫師を招くべし產後腹帶を施さんと欲せば宜く緩かに纏ひて俄に空虛となれる腸部に快適なる保支を與ふるを度となすへし輕易なる平產に於ては一椀の茶一匙の藥を要せずと雖ども產婆は尙一二時間產室に止まりて子宮斂縮の情態を視察すべし而して產後九日間は日に二回つゝ來訪し以後は土地の風習及貧富に由り日に一回つゝ二週乃至六週間來訪すべし

產褥熱の症候原因

褥熱の徵候は惡寒戰栗發熱し腸痛を生じ惡臭の汚物を下す等にして最も恐るべき病あり此症は他人の健康なる時期に於て獨り產婦のみ之に罹るものにして時として死に陷ゐることあり而仝一の產婆を招く產婦にして相繼て此症に罹ることあり此症は何に由て生するや單に感冒の爲に發するや又は俗間に所謂乳汁の頭に衝騰する爲なるや否然らず何となれば往々一地方を限て斯の如き不幸なる慘狀を呈し殆んと流行性を示すことあればなり然らは其原因果して何くにあるや

其原因の何たるは次の說明に由て容易に了解し得へし卽ち日常手指に小創を受くるは決て珍らしからぬことにして多くは數日を出でずして癒ゆると雖ども若し銹たる刀にて刺傷し若くは魚を洗ふに當て負傷

し若くは創部を不潔に保つときは其部は赤く腫れ熱と痛を發し其形變じて潰瘍狀と成り容易に癒ゑず其甚しき者に在つては腫起全腕に及ぼし體溫昇進し指の一二節壞疽に陷るとあり是れ所謂敗血症を發せるあり而して其初め僅に指頭に小創を蒙りしより漸く進て如斯き危險の症に陷れるなり又之れと同じく實に微少なる創傷と微少なる汚物の爲に敗血症を發し遂に死に陷ゐる例あり即ち先きに死獸若くは腐物を吸ひたる蚊虻の嘴に皮膚を刺すに由て此症を發するとあり而してこれは獨り手指のみに限らず身體諸部に於ても亦均しく僅かの掻傷刺傷等を受けたる部より汚物を攝取し危險の症に陷ゐるとあり然るに產婦に於ては腟口より胎盤の附着せる部に至る迄孰れも悉く汚物を攝取し得へき性を具へ且又會陰部の裂傷及腟部の上皮剝脫は單に癒合するを常とすれども若し病毒及ひ汚物に接すれば些少の創傷も變して潰瘍狀を呈し漸次瀰蔓すると猶ほ指頭に於ける小創より進て全腕を侵すに異ならず而して其危險なる點に至ては手腕の比にあらず畢竟手腕は本體の分枝にして樞要の器官に遠隔すれども產道は之と異なり體腔中に位し自ら樞要の器たり且つ疾患を帶ふれは隣接せる內臟にも及ぼすへきを以て甚た危險ありとす而して不潔物及び病毒の產部に觸るゝは分娩時を以て最も危險ありとす何となれは此時產部は悉く弛緩せしをるを以て病毒を容易に樞要なる內臟に侵入せしむれはなり而して汚物を傳ふる者は主として產婆及ひ醫師の手指器械海綿綿花衣服あり即ち此等若し汚染せるか或は病毒を帶ふれは直ちに之れを產部に傳へ以て產褥熱を發せしむ故に產褥熱は決して世俗の所謂乳汁の溢れ若くは血液の頭に逆衝するか爲に發するものにあらず此を以て產婆は產室に入る前には必す己の手指並に器械を洗淨し且つ綿古綿等は決

して用ゆ可らす又稀に胞衣の小片子宮内殘留し、或は惡露を吸收する爲に染病することありと雖とも是れ頗る稀有のことなり

產婦の手指及器械

總て產婦に接すへき器物は極めて淸淨になすこと最も肝要なり往時は產に臨み腰枕を用いたれとも此等の者は用ゆ可らず若し之を要せは新調すべし決して一たび他人に用いたる者を用ゆ可らず又古き腰卷き下着古衣等を代用することは貧者と雖とも決してなす可らす如何となれは生命の惜むべきは些々たる失費の比にあらされはなり

產婦の用意

各自用の子宮管及其他の器械を備ふへし而して之を用ゆるに臨て先五十倍石炭酸水に浸し次に石炭酸油石炭酸一分ヲレーフ油二十五分の者を塗りて淸淨になすへし現今プロイセン國に於ては規則を設け必す斯の如くなすことせり

海綿

產婦には總て之を用いす淸潔なる布片脫脂綿サリチル綿石炭酸綿及び其ガーゼを用いて汚物を拭ひ去るへし而して一回用いし者は必す廢棄すへし

鑛製の器物

之は熱湯に浸して洗淨すへし產婆看護婦は各自用の石炭酸水を備へし產部を洗淨するには五十倍石炭酸水を用ゆへし

產婦分娩し了らは先つ石炭酸水を以て產部並に上脚を極めて淸淨に洗滌し着用せる衣服臥褥等は悉く除き去り更に新淸なる者を用い而して產部に裂傷其他の創傷を生せさる以上はサリチル綿に吸收せられ衣服敷布及身體を汚穢するに至らす從て汚液分解して病を釀すことなきなり

產婆手指の洗淨

手指は産部に接するに先ち必らす石鹼を用いて數回洗滌すへし此際注意すへきは爪下には殊に汚物の潜在するを以て毛刷に石鹼水を浸し摩擦して能く洗滌し而して石炭酸油を塗布すへし

襯衣敷布臥褥の更換

すへて分娩時の被汚物は速に之を除き去り又分娩後最も汚れやすき者は少くとも日に二回襯衣敷布の如きは日に一回若くは隔日毎に更換し石鹼水若くは石炭酸水中に投し熱沸して後ち能く洗浄すべし又産室は充分に通氣すへしと雖隙風を避くへし

産婆の注意

熱を帶ひ若くは疾病ある婦人に接したる後決して他の産家に赴くへからす強て他へ赴かんと欲せは先つ入浴して更に新清の衣服を着すへし單に手指を洗浄したるのみにては不可なりプロイセン國産婆規則に據れは産婆は總て熱を帶へる産婦に接するとを嚴禁し罰則を附せり

産婦の傳染病

産婦は褥熱の他に時としてヂフテリア窒扶斯赤痢痘瘡梅毒に感染するとあり是れ分娩時に古器具古衣服不潔の海綿及不潔の器械を用い或は不潔なる手指に觸るゝに由て此等の病毒を衣服に帶ひ來りて移すとあり故に看護婦は從前病院等に勤仕せし者を用ゆ可らず經歷確にして健康且清潔なる婦人を撰ひ看護せしむへし而して産室に入るには必ず手指を洗浄すへし

以上の諸點中若し一つにても缺けは即ち褥熱を發し遂に危險に陷るとも覺悟すへし産後熱發するは血液の逆衝し又乳汁の漲溢する爲なりと云ひ常態と認め敢て顧慮せさる者現に世上に多く爲に婦人病の甚多きを致せり宜しく細心注意すへし此を以て産室には常に産婦嬰兒産婆看護婦の他は入るを禁止し殊に

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

兒童は不潔に流れ易きを以て嚴に遠くへし唯に喧噪なる爲のみにあらす又家人は勿論來客及贈物等を産室に入るゝ可らす如何なる病毒若くは不潔物を帶ふるも計り難けれはなり殊に食物類は決して室內に止む可らす

（以下次號）

衛生叢談

脚氣病

脚氣は日本の風土病とも云べき病にして夏期に至れば之れが爲めに苦しむ者夥しく今日にては未だ其療法については一定の方法なきが如し高木兼寛氏は食物中の含むところの炭素と窒素との不平均にはあらさるかとの考へにて其平均を保たしむることを勉められたりと其頃海軍乗組員の食料は每艦現金にて渡し自から食品を買ひ來るの仕組みなりしがかくては水兵の如きは十五錢を渡すも七八錢にて生活するの有樣ゆへ自然食物の粗品を食する樣になりしかは玆に炭素窒素の不平均を來すものあらんとて以後各人の食料につき一日の食肉は何程野菜は何程と定めこれまで全く日本食なりしものを急にパンを食はしむることなしたりしに其効能現はれて五六年以來脚氣病者なきに至りたりといふ

米を食はざる西洋人には絶へてなしと云へとも時々ライスカレーを食する西洋人若しくは米を多量に食する印度濠州南洋諸島等にある洋人は脚氣病にかゝると云へりされば脚氣あるものは米とは離るべからざるものなるべし而して今日の經驗によれば其豫防法は滋養物を食し炭窒素の平均を得せしむると夏季間麥飯を食するとは其患を免るゝに至るべし陸軍に用て効ありし麥飯しは前號にも記載したる米五分に麥五分或は四分の割合なりといふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

又新潟師範學校生徒には近頃脚氣に罹るもの多きよしなるが今某軍醫の話すところに依れば師範學生に病者多きは畢竟校舍木材の新しきと其壁の新しきが爲めなるべく軍營にても斯るためしありて新築の兵營には六ヶ月兵士を入れざりしことありしが現に師範學校女子部の生徒に此病なきを見れは其建築用材の古きが爲めなりと思はる云しと述べられたり、

◉臥寢法

朝起き口の中に惡しき臭ひのするは左の方を下にして寢るによりて生ずるもの多し何となれば左の方を下にするときは胃の消化を困難ならしめ或は之を止めしむるを以てなり而して又心臟の働きをも妨ぐること少しとせず故に健康に適したる臥寢法は仰臥を以て第一とすれども不健康のものはなし能はざれば成るべく右の方を下にするの習慣を付るようになすべし云々と或醫家は語りぬ。

◉健康の規律

惡疫發生の恐ある今日は身体の攝生に注意せざるべからずたま〳〵英國ベヂテリアンソサイテイーの健康規律なるものを得たれば左に掲げて各自衛生の參考に供す

(一)自然の食物を成るべく自然に食すべし

(二)種々なる食物を一度に取り交へて食ふべからず

(三)欲しきまゝに飲食するは大害あり九分は却て十分にまさるの効ありと知るべし

(四)度に過ぎたる冷たきもの熱きものを避くべし

(五)食物は能く嚙みて遲く食せよ

(六)鼻により呼吸するをよしとす

(七)窓を開きて清潔なる空氣を入るゝときは戸を閉ぢて醫者を遠ざくることを得べし

世俗に曰く「日光の這入らぬ家は醫者が入」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

る」

(八)身体は清よく洗ひて皮膚に不潔を來すこと勿れ

(九)程よき運動をなし能く寢ねて早く起きよ

(十)衣服は輕くして清潔なるべし

(十一)成るべく藥を服することを止めよ治療は天然にして醫者に非ざるを知れ

●日本人の浴湯

日本は濕氣の富める國柄なれど日本人にはリヤウマチス病少くして居留外國人に多きは全く其沐浴の冷温に關するものなるべし日本人が常に浴するところの浴湯の度は攝氏四十二度より低きことなし故に其皮膚は歐州人よりも強よくして寒さに堪へ外部の刺戟に侵され難し云々と橫濱居留のドクトル、ミサヤツト氏は此頃米國の醫事新聞へ寄書せりといふ又久しく帝國大學にありたるドクトル、ベルツ氏は此程開きたる獨逸國ウイスバーデン內科學會に臨みて日本人の温浴に就て一場の演說ありしよしなるが從來熱き湯に浴することは身体を薄弱ならしめ重症の感冒を招くものなりと傳へたる僻說を破り却つて熱浴の効能あることを述べられて喝采を得たるよしなるが日本に皮膚病の割合多きはしば〲温浴をなすが爲めなるべしと是に於てか江ッ子の朝湯誇るに足るべしと云へども之れは又アマリニ〲

●食物と出產との關係

世界一般に男子は女子より多く生るゝものにしてこれは其父母の勢力の如何に因るものゝ如し而して夫より其妻たるものゝ年齡長じたる者は多く女子を產み又私生兒の如きは女子の多きを常とす故に常食品の騰貴は一家の夫たるものより家事に心勞する其妻に一大關係を來し爲めに婦人の体力なり思考力なり損することを知るべしと普魯士國の經驗によれば

食用品の高價なりし翌年は平生より男子の出産最も多かりしといふ

◉煙草の効能

煙草は養生に害ありとは誰も知りつゝ吹煙するところあるが近頃獨逸伯林に於て試驗したる成績に依るに煙草は虎列剌の病毒たるコンマバチルスの發育を妨ぐるの力あり即ち煙草の葉の上にはコンマバチルスは生育せず其混じりたるものあるときは更に速に死滅しその煙も亦コンマバチルスの發育を妨ぐるの力ありと云ふ煙草ずき以て喜ぶべしと云へども其適用實に六ッかしと云ふべし

◉爪の成長

日本にても爪取りの日を撰み卯巳羊に爪取る猿ななゞと云ひて猿の日を忌むの習ひなるが西洋にても又其諺あり曰く「健康を祈れば月曜に爪切れ」「富貴を望まば火曜に爪切」「手紙を待つ人は水曜に爪切れ」「旨ひ事を捜せば木曜に爪切れ」「金曜に爪切るは妻の爲め」「土曜に爪切る人は長命」「日曜に爪切る人の門には禍ひ來る」などゝ御弊をかづぐか米國の醫學士は此程精密なる爪の研究を爲したりと其注意のほどいみじかりける夫れ爪は毎周一インチの三十二分の一毎年一インチ半餘の割合に延るものにして夏は冬より延ること早く中指の爪は一番早く延び親指小指は容易に延びず是を平均して算すれば四ヶ月半にして先づ生長の極度に達するものとす此割合より推すときは七十才の人は爪を切り去りしことと百六十八度なるべし之を七十歳まで延るがまゝに捨て置くときは各の指には七フヒート九インチ（一尺五寸余）の爪を見るに至るべし此外爪はよくそれ〴〵の病氣に隨つて形は色を變ずるものありと今に始めぬことながら西洋學者はよく緻密なることを詮索するものかな

◉水醫法

(万病快治)ババリヤ國ウォリスホウヘンのチイプと云へる人は有名なる水醫なるが此頃獨逸伯林に於て水療に關する講演をなしたる其要旨に據れば水は人間の万病を治するの最良材料なり水を以て治癒せざる病氣は終生治癒し得べからざる難症なりとす余は本來醫家にあらず又醫術を學ばず且つ余は四十七年前に大に健康を失して不治として見放されたるなり然るに水醫法を發明して自から我身に試みたるに頗る好結果を得漸次快癒に赴きて遂に今日の健康体に復し得たり夫より隣人朋友に適用するに如何なる難病頑疾も其快癒する事神の如し要するに水醫法は最良療治たるに外ならず云々吾輩は此治術の詳細を知ん事を欲するものなり

◉斷食の試驗

伊豆國賀茂郡韮山村の鈴木擔雪氏は久しき以前より塵事を厭ひ山深く籠りて世人と交通を絶ち獨りすまし顔してありしが遂に仙術を學び人は食せずして命を繋ぎ得べしとの不思議なる奇法を發明し自ら一の丸劑を調製して之を仙人丸と名け一日に二三粒づゝ服用して數日食を斷こと屢ゝなりしが今回醫學博士某氏の紹介に依帝國醫科大學に於て四十日間の斷食試驗をなす事となり既に同氏は過日上京し早速斷食に取りかゝる筈なりしが生憎冒險者の身体に他の病氣差し起りし爲め一時見合せとなり該病平癒の曉を待ちて實驗に取りかゝるといふ。

◉蜂を以て僂麻窒斯を療す

今を去ること二年前澳地利の外科醫某氏は一の醫說を發明したり、其は一たび蜂に螫されて其毒を受けたるものは再び螫されても復其害毒に感染せずと云ふことなり而して此發明と同時に蜂をてし僂麻窒斯患者の体を螫さしむるときは必ず全癒すといふ一驗

明をも爲し得たり此れは事實の證明誠に多きよしにて現に地中海マルタ島の如きは島中蜂多きを以て島民は常に蜂を僂麻窒斯治療唯一の好料となし居ると云ふ又奇妙なるかな

◉兵營の衛生

大坂衛戍の諸隊每年の例により暑中腸胃に可らざる食物を禁ぜんとす炎暑の折柄參考のため其種類を掲ぐ

天麩羅、蝦、蟹、烏賊、蛸、赤鱏、鯖、鰯、蒲鉾 太刀魚
刺身、八幡卷、塩魚、鰊、貝類、燒豆腐、

◉歐州自殺多し

近年稀なる暑氣に逆上してか歐州近來自殺多く五月十五日、六月十五日の三十日間に毒藥を飲で死亡せるもの倫敦廿三人、伯林廿八人、巴里廿七人、羅馬十一人、維也納九人匈牙利ブーダペーシユ府にては一夜二時半間に七人の自殺者ありしと

◉房楊枝の嚥下

本所緑町の雜業商小谷某の妻某（四十八年）は去る六月廿二日胸惡しとて嘔吐を爲さんと故と房楊枝にて咽頭を刺戟せしに誤ッて之を嚥下したり當人は大に驚きしも自分の粗忽を耻ぢて人にも告げざりしが其後食後又は身体を動すときに疼痛を起す樣になりしを以て遂に隱し切れず去る四日本郷湯島なる順天堂に至りて佐藤院長の診斷を乞ひたるに院長の説にては胃を切り開きて取出すより外に術なしとの事にて左の胸下を四寸許切開して難なく楊枝を拔き取りしに其長六寸五分餘ありて尖りたる方は胃の織中に刺入りたりと覺しく血に塗れて全体に黄色を帶び居たりしと聞くもゾットすることゞもなり

流行病一束

◉本年の暑さと虎列刺

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

獨り日本のみにあらず英國倫敦の如きも古今未曾有の暑熱にて去る六月廿日は中暑の爲め路頭に即死せしもの二人あり其夕刻は劇烈なる雷雨にて家屋田圃の損害少なからず獨逸伯林にても暑氣殊に甚だしく草木は都て枯槁し且つ山火所々に發して其損害一方ならず亞刺比亞の如きは熱帶地方の事とて其暑さ言語に盡し難く去る六月十六日より同廿二日まで一週間に於てコレラに罹りて死去せしもの都合八百卅二人の多きに達せりと

◎天然痘と虎列刺と本所病院

去月廿七日仝病院の入院患者を取調べし處腸窒扶斯四十六人の新患者入院三人全治退院せし者二人死亡一人ヂフテリア一人にて天然痘及コレラ患者は一人もなしと

◎熱性脚氣流行

本年脚氣病に罹る者の中には熱性脚氣多く熱度三十九度以上より四十度或は四十度以上に上るとあり熱の減退すると同時に腰拔けて動くこと能はざるに至ると云ふ然れども此熱性脚氣はチブス性の熱と其の經過全く別ありと云ふ

◎各縣赤痢

熊本にては六月廿三日より七月三日迄の新患者二百十五名死亡三十二名にて佐賀縣の如きも益々猖獗にして大阪府下にては初發より市部にて四十三人死亡一人郡部にて百人死者二十七人神奈川縣の如きも漸次蔓延の姿にして去る二十六日までの患者三十六人死亡五人とおい／＼東京府下へも將に侵入せんとす既に府下に於ても此頃同病に罹る者あるに至れりと油斷のならぬことではある

諸會景況

◎大日本婦人衛生會例會

去月一日第一土曜日午後一時より麴町富士見町二丁目富士見倶樂部に於て例會を開く總裁　小松若宮御息所殿下にも御臨場在らせられたり醫學博士弘田長君には小兒の避暑に就て時節柄有益なる演說あり次に醫學博士緒方正規君には室內の空氣に就て木材煉瓦壁紙等の外氣の交換を一々實驗に徴し延いて疾病のことに說き及ぼされ右終りて一同休憩散會せしは五時頃なりしが當日出席會員大凡四十餘名なりき

◎大日本私立衛生會

同會は第十一次總集會を去月廿一　廿二の兩日名古屋に於て開きたり同會々頭土方久元君及熊谷名古屋支會副會頭時任愛知縣知事等の祝詞あり後藤同會幹事には同會の庶務及會計報告を爲し續いて朝野諸名士の演說あり二日目仝上副會頭長與專齋君の閉會の祝辭により總會を終り公衆の爲め兵營病院博物館學校諸會社より其他諸々に縦覽を爲せり又同地の諸官民主となり衛生大園遊會を催せしが會するもの七百餘名極めて盛會なりしといふ

◎赤十字社の社員增減

日本赤十字社に於ける本年六月末の社員增減を聞くに入社員二千五百廿六人退社人八十六人死亡廿三人社員總數三万八千四百卅六人なるが同社員の最も多きは大坂府にして五千五百有余東京は千六百有餘割合少きをもつて府下各區の有志者は非常に奮發して協議を遂け各區長を始め市府會議員、辨護士、紳商等より八十余名の委員を設け充分增員を圖る見込なりと云ふ

◎御斷り　原稿の都合により浴場行日誌は次號に澤山掲載することゝ致し候間左樣御承知被下度候

廣告

◎大日本婦人衛生會に於ける七月中の入退轉居は左

の如し

入會者

◎會員河野せき子の紹介により
本郷第一醫院病室にて 通常會員 早川しま子
◎幹事加藤常子の紹介により
京橋三十間堀三丁目十二番地
特別會員 朝野百子
◎會員内田芳子の紹介により
赤坂氷川町三十六番地 通常會員 相良濱子
◎會員石川貞子の紹介により
京橋築地一丁目七番地 通常會員 荒巻つね子
◎地方會員細川靜子の紹介により
神奈川縣三浦郡浦賀町荒巻三百五十三番地
通常會員 德田百六子
仝 三浦郡浦賀町鴨居河埜通義方
通常會員 井上もと子

轉居

一相洲横須賀稻岡町六十五番地へ 丹治はる子
一赤坂榎坂町五番地へ 田中てる子
一赤坂青山南町二丁目廿六番地へ 進道子
一麴町區隼町三十六番地へ 小田松子
一京橋區山城町三番地へ 天野群子
一麴町區紀尾井町廿三番地 手塚ふく子

退會

大口のぶ子 戸田愛子 本田せん子
山田米子 西田峯尾子

八月 大日本婦人衛生會

廣告

宮田産室

謹告

の得意とするところは妊婦産婦に對して特に温和、親切、叮嚀なること。路の遠近人の貧富を問はず御依賴次第速に出張すること。其手術の熟練巧妙にして必ず安産せしむることにあり

は常に産科婦人科及び小兒科專門の醫學士の指導を受け患者の事あるに臨みては其診察治療を受け得らる可し

は妊婦産婦の入室を許し或は熟練なる産婆看護婦を派出す

一 妊婦入室料　一日　參拾錢乃至五拾錢

一 看護婦日當　一日　廿五錢乃至五拾錢

一 産婆看護婦志望の者は寄宿を許す

東京市日本橋區久松町三十番地
私立東京産婆學校外塾
宮田産室

◉府下一區一郡に對する病院醫師産婆の區別

今度東京府廳に於て調査したる東京府廳に於ける去る二十五年十二月三十一日現在の病院及び醫師産婆の員數を區郡に區別すれば左記の如しと

	病院	醫師	産婆
麹町區	二	三三三	一一五
神田區	五	四九五	一一四
日本橋區	五	三三四	一三六
京橋區	一	二五八	八〇
芝區	三	三三七	一七
麻布區	一	一〇六	二六
赤坂區	一	一一七	二六
四谷區	〇	八四	二九
牛込區	一	一七三	二七
小石川區	二	一三四	三六
本郷區	五	九九八	七六
下谷區	四	三五七	五四
淺草區	二	二四三	七六
本所區	一	一五三	七二
深川區	〇	八六	三〇
荏原郡	一	六六	四七
東多摩郡	〇	一四	一〇
南豊嶋郡	一	二六	八
北豊嶋郡	〇	八八	一八

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

南足立郡	〇	三五	九
南葛飾郡	一	五六	五三
合計	三六	四四七二	二一九
市部	三三	四一八七	九七四
郡部	三	二八五	一四五

醫師産婆一人に對する比較は左の如し

	戸數	醫師人口	産婆一人取扱出産數
麴町區	三六、三四	一八九、九七	一三、二〇
神田區	四二、六二	二一、六二	二一、八七
日本橋區	七四、七二	四一六、三九	二〇、七九
京橋區	一〇一、三三	四五一、三七	三三、七五
芝區	七三、四三	三七七、七四	三六、七三
麻布區	九九、〇三	五〇三、二八	四五、九六
赤坂區	七七、一五	二八七、三三	三四、八八
四谷區	一〇二、三七	四一九、九六	三四、一四
牛込區	五九、八九	二七四、二三	三九、一四
小石川區	八四、三九	三六九、一三	三三、七二
本郷區	一六、七九	五九、七八	二〇、一七
下谷區	五一、二〇	二五一、六三	四二、二八
淺草區	一三三、八三	五二四、一七	四五、〇五
本所區	二一、五一	七四一、〇四	三九、七一
深川區	二七、〇九	九五八、三〇	七四、六七
荏原郡	二五八、一七	一三三〇、七六	七二、三八
東多摩郡	二五五、一四	一五二〇、六四	八二、九〇
南豊嶋郡	二八七、一五	一三八三、五四	一三〇、三八
北豊嶋郡	一六九、五六	九一三、六七	一六〇、三三
南足立郡	二〇七、二九	一二六七、一七	一八〇、七八
南葛飾郡	二三一、七三	一三五六、五〇	五〇、七五
合計	七六、三九	三五〇、七三	三七、九四
市部	六六、四九	二九四、九七	三〇、八六
郡部	二三一、八六	一一〇、〇〇	八五、五〇

明治廿六年八月三日印刷
明治廿六年八月四日發行

發行所 東京下谷區練塀町四十三番地 大日本私立婦人衞生會

編輯兼發行者 東京牛込區矢來町三番地 田中德三郎

印刷者 仝神田區小柳町十三番地 小高良造

印刷所 仝神田旅籠町貳丁目拾一番地 廣業館

明治二十一年二月二十八日内務省許可

明治二十六年四月四日遞信省認可第一金曜日發行 （定價金十錢）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN